

平成 28 年度
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～8
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	8
津名デイサービスセンター	9
千鳥会居宅介護支援事業	9～10
千鳥会在宅介護支援センター	10
家族介護教室・家族介護者交流事業	11
地域支援事業 (ふれあいの集い ちどり・高齢者住宅等安心確保事業・兵庫L S A・配食サービス)	11～12
グループホーム しおさい	13
しおさいデイサービスセンター	13
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	14
ゆうらぎデイサービスセンター	15
ゆうらぎ訪問介護ステーション	16
養護老人ホーム 北淡荘	16～17
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	17
佐野デイサービスセンター	18
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	18～19
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	19～20
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	20～21
ちびっこランド ちどり	21～22

2016(平成 28)年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
評議員会	平成 28 年 5 月 23 日	千鳥会 法人本部	19/19	①平成 27 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②平成 27 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ③平成 27 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ④平成 27 年度 社会福祉法人 千鳥会 幹事監査報告の件 ⑤役員構成の件 ⑥勤怠管理システム導入の件 ⑦その他	なし	宮尾慶子 船越洋子
理事会			9/9		なし	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	平成 28 年 8 月 29 日	千鳥会 法人本部	16/19	①役員構成の件 ②昇降機部品供給停止のため改修工事実施の件 ③その他	福田信一 桂 孝弘 田中清文	宮尾慶子 船越洋子
理事会			7/9		福田信一 桂 孝弘	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	平成 28 年 12 月 19 日	千鳥会 法人本部	18/19	①社会福祉法人千鳥会補正予算案の件 ②LED照明設備取替えの件 ③社会福祉法人制度改革の件 ④独立行政法人 福祉医療機構・徳島銀行洲本支店 借入の連帯保証人変更の件 ⑤その他	福田信一	宮尾慶子 船越洋子
理事会			8/9		福田信一	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	平成 29 年 3 月 27 日	千鳥会 法人本部	18/19	①平成 28 年度 社会福祉法人千鳥会 補正予算の件 ②平成 29 年度 社会福祉法人千鳥会 事業計画(案)の件 ③平成 29 年度 社会福祉法人千鳥会 新年度予算(案)の件 ④諸規定変更の件 ※就業規則 ※旅費規程 ※給与規定 ※経理規定 ※育児・介護休業に関する規則の規定 ⑤千鳥会役員構成及び社会福祉法人制度改革の件 ※定款、評議員選任・解任委員会運営規定の一部変更 ※新評議員就任 ※定款細則 ※役員等報酬規程 ※今後のスケジュール ⑥その他	大月典運	宮尾慶子 船越洋子
理事会			9/9		なし	宮尾慶子 船越洋子

2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
全職員	兵庫県警 淡路署生活安全課 豊原 様	麻薬・薬物・ドラッグについて	2016年10月28日(金)	43名
			2016年11月16日(水)	31名
			2016年12月7日(水)	47名
			2017年1月17日(火)	43名
			2017年3月3日(金)	26名

3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目/実施場所		参加人数
職員福利厚生事業	2016年7月23日(土)	バレーボール	神戸ワールド記念ホール	7名
	2016年9月9日(金)	BBQ	佐野デイサービスセンター(雨天決行)	50名
	2017年3月24日(金)	ボーリング	旭洋(南あわじ市)	27名
職員親睦旅行	2016年6月12~14日(日~火)	台湾		12名
	2016年6月19日(日)	奈良		30名
	2016年7月3~5日(日~火)	東京		18名
	2016年8月25日(木)	USJ		32名
	2016年9月25日(日)	劇団四季「CATS」観劇		35名
	2016年10月16~17日(日・月)	京都		15名
	2016年10月30~31日(日~月)	長崎		25名
	2016年11月27~28日(日・月)	三重		22名
	2016年12月4日(日)	香住		25名
職員親睦会	2016年6月3日(金)	「ウェスティンホテル淡路」		160名
忘年会(佐野)	2016年12月3日(土)	「きとら 津名店」		8名
新年会(ほほえみ)	2017年1月6日(金)	「長松旅館」		46名
新年会(ゆうらぎ・北淡荘)	2017年1月13日(金)	「きとら 津名店」		72名
新年会(ぬくもり)	2017年2月3日(金)	「きとら 津名店」		9名
新年会(しおさい)	2017年2月17日(水)	「波の華(郡家)」		14名
新年会(ゴールド)	2017年2月17日(金)	「ポンテメール」		48名
職員健康診断 (前期・後期)	2016年4~5月	ゆうらぎ・北淡荘		38名
	2016年5~6月	ゴールド・しおさい・ぬくもり		100名
	2016年7~8月	ほほえみ		56名
	2016年10~11月	ゆうらぎ・北淡荘・本部		94名
	2016年11~12月	ゴールド・しおさい・ぬくもり		36名
	2017年2月	ほほえみ		22名

職員腰痛検査 (前期・後期)	2016年8～9月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり	148名
	2016年8月	佐野デイ	7名
	2016年10月	ほほえみ	40名
	2017年2～3月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり	148名
	2017年2月	佐野デイ	6名
インフルエンザ 予防接種	2016年11～12月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり・本部	180名
	2016年11月	佐野デイ・ほほえみ	61名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

4. 入社式

入社式	新入職員数
2016年4月1日	3名
2016年6月1日	6名
2016年8月1日	2名
2016年10月4日	2名
2015年12月1日	4名
2017年2月1日	3名
合計	20名

5. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護支援専門員	1件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉士	0件
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	7件

6. 地域貢献事業

バジーズギャラリー作品展示

期間	作品名	出展者
4/1～4/23	神田ちづる 畳のへりバッグ展	神田ちづる
4/25～5/11	洋画セミナー作品展	淡路文化会館洋画セミナー受講生
5/11～6/8	日本画セミナー作品展	淡路文化会館
6/8～7/15	ゆうらぎ・北淡荘 書道教室作品展	ゆうらぎ・北淡荘 書道教室参加者
7/9～8/31	大迎正治 写真展	大迎正治
9/1～9/30	三浦田鶴子 (彫金・七宝焼展)	三浦田鶴子
10/4～10/31	葛原あきこ洋画展	葛原あきこ

11/1～11/30	淡路市北淡地区文化祭書道展	淡路市北淡地区文化祭展示者
12/1～12/30	洲本高校 手芸展示	洲本高校 手芸部
12/31～1/30	育波小学校 書き初め展	育波小学校 全校生
2/1～2/28	ゆうらぎ掛軸展	ゆうらぎ ご利用者家族
3/12～4/7	あゆみ書道展	北淡あゆみ書道教室 受講生

ほほえみギャラリー作品展示

期 間	作 品 名	出 展 者
4月	ほほえみ春祭り写真展	ほほえみ
5月		
6月	森 幸子作品展 日本画・水墨画（春～初夏）	森 幸子
8月	児童画	絵画教室 久留麻
9月		仮屋保育所
10月		浦小学校
12月	児童作品展	浦小学校
1月	書道「書初展」	学習小学校
2月	写真展「淡路の山野草」	白石鉦三
3月	山田総子・森 幸子作品展 「絵画展」	山田総子・森 幸子

7.情報公表サービス受審

■ 第三者評価

しおさい しおさいデイ	2017（H29）年3月31日
----------------	-----------------

■ サービス評価（淡路市提出日）

ぬくもり	2017（H29）年3月31日
小規模ほほえみ	2017（H29）年2月17日

■ ISOサーベイランス

2017年1月30日～31日

■ 指導監査

北淡荘	2016年10月20日
小規模ほほえみ	2017年2月10日
ぬくもり	2017年2月10日

8.総括

改正社会福祉法の成立により、社会福祉法人を取り巻く状況は大きく変化しています。特に「地域における公益的な取り組み」の責務や評議員・評議員会の設置化により、社会福祉法人は、これまで以上に地域社会との結びつきを強めていく必要があります。社会福祉法人の経営は、社会福祉施設・事業所の経営にとどまらず、地域社会の一員・地域の安心拠点として、地域の生活・福祉課題への積極的なアプローチと課題解決に向けた対応が求められています。この度の政省令で発出された、評議員や会計監査人の設置、社会福祉充実計画等の改正項目は、すべての社会福祉法人の組織・経営に影響を与えるものです。これからも、社会福祉法人としての存在意義を高め、主体性・自主性を活かした法人経営が必要です。

特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド 事業報告

平成28年度 事業所総括

○勉強会・職員のスキル向上・人材育成

特養勉強会の定着と介護、看護、相談員・ケアマネの各部署単位での勉強会により、職員の資質向上を図ることができました。また移動用ロボット（SASUKE）の導入により、業者より使い方の指導を受けました。今後職員に浸透していくよう努めていきます。

○感染対策

感染症についてはノロウイルスの感染は利用者0名で、職員、職員家族に胃腸炎の発症はありましたが、施設内に持ち込みすることはなく、施設内での感染は発生しませんでした。インフルエンザの感染に関しては、利用者23名（特養・ショート・デイ含む）、職員5名と感染が拡大し、終息するのに12日間（H29. 1. 10～H29. 1. 12）かかりました。その間ショートステイの受入を制限し、職員にタミフルの予防投与をするなど拡大防止に努めました。

○運営面

年間を通して、61床のベッドに対しての稼働率97.39%維持することができました。今年度は施設での看取り介護の人数：10名（前年度に比べ+1名）。入所者：15名（前年度に比べ+1名）、退所者16名（前年度に比べ+1名）と年々増加傾向にあります。これは平成27年4月の介護保険の改正で新規入所者が原則要介護度3以上になっており、結果利用者の重度化が進んでいるのが要因の1つになっているかと思われます。ショートステイの方に関しても緊急ショートの受け入れも行っております。今後も利用者・家族のニーズに応えられる施設づくりを行っていきます。

平成29年度への課題及び展望

長期入所者の平均介護度は、H28. 3. 31現在で3.61（前年度H27. 3. 31現在で3.82）と入所者の重度化が進んでいます。平成27年の介護保険制度改正により入所要件が原則要介護度3以上となり、今後ますます入退所、入院者延べ人数が増加すると思われ、入所者の重度化に合わせたハード面とソフト面の対応が不可欠になります。

28年度もスキルツリーを開催しており、介護技術の向上や職員に伝達する力の向上に努めて参りました。また利用者が安心・安楽に介助を受ける、職員の腰痛予防の軽減のため、リフトやモジュール型の車椅子等の福祉用具の導入を行いました。平成28年度も職員の介護技術の向上や福祉用具の導入などハード・ソフト両面から充実化を図り、利用者の重度化、重度の方（身体的・認知）にも対応できるチーム作りを行いたいと思います。

津名デイサービスセンター 事業報告

平成 28 度 事業所総括

平成28年4月1日から平成29年3月まで、利用者から選ばれるよりよいサービスを提供するため、介護知識・技術と接遇の向上、レクリエーションの充実を、下記のように取り組みました。

- 職場環境を整え、教育・研修を推進し、全職員で資格取得に向けて学習。
- レクリエーション委員会を設置し、ニーズに応じたメニューの開発。
- 開業医及び居宅介護事業所を訪問
- 専門職による個別機能訓練・運動器機能向上の実施。
- 欠席者へのフォローアップ。
- 外食レクリエーション・買い物レクリエーションの充実。
- 本年度稼働率78%、延べ利用者数12051人となり、新規利用者21名、昨年より利用者増加の為、7月より定員55名に変更。今後も機能訓練の充実を図り、サービス内容の見直し、専門職の連携強化などを図っていききたいと思います。

平成 29 年度への課題及び展望

安定した稼働率実施のため、サービスのマンネリ化を防ぎ、多様化する利用者の個別ニーズに柔軟に対応できるようサービス内容の継続的改善に努め、コンプライアンスに基づいた客観的、社会的、科学的なケアを目指しながら、津名デイサービスの特色と独自性を持った事業を展開し、体質を強化して参ります。そして職員のスキルアップをはかりよりサービス内容向上を目指します。

また、老朽化したハード面の見直しを行い、利用者がより快適に過ごしていただけるよう施設設備の改善にも努めてまいります。

平成29年度より、淡路市の総合事業が始まり、総合事業のサービス内容の充実、生活支援・自立支援・地域との関わり強化を行えるよう取り組み、津名デイサービス独自のサービスとなるように行いたいと思います。

千鳥会居宅介護支援事業所 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

居宅介護支援事業所が統合になって1年が過ぎ、職員教育の充実、ケアマネジャー間の報告、連絡、相談が密になり、他のケアマネジャーからの助言を受ける事により、利用者や家族に対しても適切な助言やサービス導入が出来るようになってきたと思います。

利用者が千鳥会を選んで頂くケースもありますが、入院、長期入所、要介護から要支援になる方も多く、サービスの中止になるケースも多くなりました。

また各地域ケア会議に積極的に出席をするとともに事例を報告し、その方の課題のみならず、地域の課題にまで展開できるように図り、洲本市のケアマネ連絡会にも毎月出席をすることで洲本市の情報収集を図りました。

27年度の改正により、特定事業所の集中減算も大きく変わり、今までの3事業から全事業が対象となり、更には90%から80%に引き下げられたことで厳しい状況の中ではありましたが、ケアマネジャーが一丸となって取り組み、その結果集中減算なし、との判定をいただくことが出来ました。

毎月実施した施設内での勉強会にも積極的に取り組み、より専門性を追求すべく、受講する側だけでなく、講師を務める者も知識を深めることが出来たと思います。

29年度も部署内でのケース検討会議及び居宅連絡会議を実施し職員の連携を図るとともに、施設内外の研修にも積極的に出席をし、どのような困難事例にでも対応ができるように各ケアマネのスキルアップを目指して行きます。

平成 29 年度への課題及び展望

今後も増えてくると予想される認知症の方ばかりでなく、障害を持った高齢者、特定疾患の比較的若いご利用者等の在宅支援を積極的に取り組み、専門医他関係者との連携を図ることでケアマネが認知症や様々な障害、特定疾患を理解することで一層寄り添った支援ができると思います。

法令を遵守し、気づきの力を磨き、自己研鑽に励み、介護支援専門員としての専門知識を身につけ、地域の方から選んでいただける居宅介護支援事業所を目指すとともに、地域支援関係者とも積極的に連携を図り新規利用者を増やすことを目標に、高齢になっても地域との関わりを継続し、住み慣れた自宅で自立した暮らしが継続できる事を目指し支援していきます。

また、居宅は千鳥会の看板となる為、千鳥会のブランドを広げられるよう取り組んでいきたいと思ひます。

千鳥会在宅介護支援センター 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

高齢者とそのご家族及び地域住民の介護・生活支援・介護予防等に係る各種の相談・調整活動を通じ、高齢者の自立ならびに生活の質の向上を図ることを目的としています。

淡路市内に生活する高齢者が、要支援・要介護状態にならないよう予防を行い、住み慣れた地域で快適に安心して暮らせるよう、行政機関やサービス提供事業所と連携を図り、各種の地域支援サービスが利用できるように活動を行っています。

平成28年度は前年度に引き続き、一人暮らし高齢者を中心とした訪問を積極的に行いながら、緊急性の高い場合には地域包括支援センターの職員と同行訪問を行うことで、情報の共有を行うとともに、適切な医療・福祉・介護サービスにつなげられるように支援を行ってまいりました。

しかし、介護保険を申請しても本人、家族の理解不足などでサービス利用につながらないケースや、介護保険内でのサービスでは支援できないケースも多くあり地域や住民への支援協力依頼や淡路市独自のサービスや当法人による自主事業に繋げ在宅での生活が継続できるよう支援していきたい。

また津名地域、北淡地域のケア会議や「包括・在介連絡会」「包括・千鳥在介情報共有会」及び各地域の民生委員児童委員協議会に毎回出席をすることにより行政や他の事業所、地域との情報の共有を行ってまいりました。

また「認知症をささえる家族のつどいひまわりの会」に毎月参加し、家族の声を傾聴することで、参加者の思いを共有することもできました。また、つどいの後に開催されるカンファレンスにて会の振り返りと今後の方向性について話し合いを行ってまいりました。

介護予防事業の一環として、いきいき100歳体操への参加を積極的に勧め、初回参加者に対しては会場まで同行することでご利用者の不安軽減と、次回につなげられるよう配慮を行いました。近くに会場がない場合は、民生委員や町内会と連携し新たな地域展開を行いました。

また今年度も認知症サポーター養成講座を地域で行い地域での認知症への理解、地域力の向上にも取り組みました。

淡路市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」にも参加し、地域に当センターの広報活動を行いました。

平成 29 年度への課題及び展望

平成29年度も積極的に一人暮らしの方々を訪問または再訪問を行うことで、継続的に見守りを行い、孤独死、孤立死の予防と、高齢者虐待などを早期発見し必要な対応ができるよう、行政や他の事業所との連携、連絡を密に取り合っていくとともに、埋もれがちな住民の困りごとを地域で拾い上げ、必要な支援に繋げるしくみ作りを行うことを目指し、より地域に密着し誰もが住みやすい地域になるよう支援していきます。

家族介護教室・家族介護交流 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

家族介護教室・家族介護交流事業は、在宅で高齢者の介護をしているご家族の方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなど介護の負担軽減に役立てていただけるよう配慮し、定期的を開催しました。

また、施設見学の機会も設ける事で、施設での生活のイメージを持っていただける機会も作る事が出来ました。他に、介護の知識だけに限らず、介護者であるご家族の心身のリフレッシュを目的とした活動内容も取り入れました。日々の介護から解放され、また参加者同士悩みを共有することで、前向きになり参加を楽しみにしているという声も聞かれました。

平成 29 年度への課題及び展望

今後も介護されているご家族にとって、安らぎの場となるような活動に努めて行きたいと思えます。

地域支援事業 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

地域で自立した日常生活を送ることを目的として、地域支援事業が実施され独自のサービスを提供しました。

「配食サービス」は平成 26 年 9 月より開始、
「ふれあいの集い・ちどり」は平成 26 年 4 月より開始しました。

「配食サービス」は、手から手への配達を行うことにより安否確認が行え、コミュニケーションを図る事もできています。今後、ご利用者が増えて行くサービスであり必要なサービスと思われれます。

「ふれあいの集い・ちどり」は介護保険を申請され、
通所介護を利用するご利用者が増えたため減少方向となっています。

「兵庫LSA24」は、包括支援センター・居宅支援事業所からの紹介も多く利用ケースが増えてきています。

「高齢者住宅等安心確保事業」は、支援員との信頼関係も深く構築でき安心した生活を送られています。

平成29年度も地域支援事業は、
介護サービスや介護予防サービスと並び介護保険制度の 3 つの柱の一つとして考えて行きます。

(A) ふれあいの集い・ちどり

独自のサービスとして、H26. 4 月から生きがいデイサービスを利用していたご利用者から、
「今後も定期的に地域の方と親交を持てる場が欲しい」と希望され開始しました。

ご利用者が主体となり、プログラムを決めていただき、
そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。
外出を希望され、食事、買い物、季節の花の鑑賞、観劇、初詣と楽しんでいただきました。

事業所内で希望の調理もして頂き、
たこ焼き、巻きずし、いなりずしと腕を振るって頂きました。
アクティビティとして、カラオケ、手芸、脳トレーニング等を楽しんでいただきました。
また、9月に各地区が集まり合同で敬老会を開催し、他地区との交流を楽しんでいただきました。

(B) 高齢者住宅等安心確保事業

安否確認、生活指導相談の件数は6,876件。前年度比-2456件。
緊急出動23件、関係機関との連携4件。

システムの入替えをしていただいたが、入居者の入替えでシステムの理解不足での緊急通報があった。
その都度説明しているので今後は減ってくると思われま

緊急通報システムの機能が複雑になってきたことで住民が混乱していましたが現在は落ち着いています。
今後も独居と高齢化に伴う課題は益々増加傾向にあり関連機関との連携、生活支援はこれからも必要であり、
特に独居で身寄りのない方の緊急対応、救急搬送での付添い者の確保などが急務であると考えています。

安否確認、生活指導相談の件数は6,876件。前年度数-2,456件。

緊急通報による出動は23件・前年度比-4件、

救急搬送されたケース0件、内訳としては誤って鳴らしてしまった、何で鳴ったかわからないなど理解不足が多い。

住人の高齢化も進んでおり安否確認は必ず必要であると判断しています。

現在訪問は申請制から対象住宅の訪問が義務づけられ年齢層も幅広く、

就労中の方の安否確認が困難等の問題もありますが、創意工夫し確認の継続をはかっていきます。

(C) 兵庫LSA

利用者が住み慣れた地域で安心して自分らしく過ごして頂く為、

定期的に見守り活動を実施し、また相談援助を行い、

必要に応じ包括支援センター、担当ケアマネジャー、在宅支援センターと連携を図っていく。

また、地域住民、民生委員に事業内容をより深く理解していただく様に広報活動を行っています。

(D) 配食サービス

H26.9月から開始した配食サービスは、

サンフード(株)の共同によりバランスの摂れた食事内容を提供して頂いています。

福祉施設の職員が配達する事で安心感を頂いています。

また同時に、安否確認とコミュニケーションを図ることも出来ており、

包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も増えてきています。

今後、益々ご利用者数が増えると予想されます。

平成29年度への課題及び展望

(A) ふれあいの集い・ちどり

住み慣れた地域での生活が今後も継続できるよう、自立支援、QOLの向上に取り組んでいきます。

また、関係機関との連携を強化し、情報共有に務め、地域での暮らしを支えられる事業を目指します。

(B) 高齢者住宅等安心確保事業

平成29年度も問題解決の成功事例の更なる積み上げ、対応の円滑化に取り組み、

また地域・関連機関との連携をさらに強化し、高齢者住宅入居者の孤立・体調不良時など連携を取りながら、
生活問題の解決を推進することを目指すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

(C) 兵庫LSA

平成29年度も知名度の向上に努め、契約数の確保に努めたい。

また地域、関連機関との連携をさらに強化し、

地域住民の孤立や生活問題の解決を推進することを目指すとともに、

業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

(D) 配食サービス

できるだけ住み慣れた地域で自分らしく生活を継続していくためにも、

介護保険以外の取り組みが必要となります。

薄れている地域力を活性化していくためにも社会福祉法人として何が出来るか、

地域が何を必要としているかを模索し、法人が出来ることを提案していくことが必要であります。

グループホームしおさい 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

ご利用者が、ご家族や地域との関わりと交流、社会参加の継続を目標に支援を行ってきました。

運営面では、グループホームでは稼働率が H27 年度 92.1%から、H28 年度は 96.3%と増加する事ができました。延べ利用者数は前年度 6,066 人から、今年度 6322 人となり、 256 人の増加となり増収に繋がりました。

支出面は、経年劣化によりガス給湯器 1 台を取替えました。光熱費が太陽光発電設置及び、法人取り組みとして関西電力から伊丹産業への電力会社変更により、電気料金の削減に繋がりました。H27 年度、1,735,40 円から H28 年度、1,353,347 円となり、38,2000 円の削減効果ができました。

防災面では、自主訓練として南海トラフ大地震（津波）避難訓練を実施しました。ご利用者及び職員が安全に避難できるよう、避難経路、避難場所を周知、確認を行いました

平成 29 年度目標

H29 年度は、運営面でのさらなる稼働率向上により収入面の増加により、適切な運営が継続できるように取り組みます。稼働率は 97%を目標に取り組んでいきます。

ご利用者が、地域の住民として、日常生活での、楽しみ、いきがいを感じる事ができるようかつ、ご家族との関係性を維持し、社会参加の継続により、快活ある生活となるよう今年度以降も職員一同で協働して努めていきます。

防災面では、南海トラフ大地震地震の災害に備え、ご利用者及び職員の安全を確保する事を目的に H29 年度からは、南海トラフ大地震避難訓練を定期的に行っていきます。必ず起こるものとの日頃から意識を共有し、備えていきます。

しおさいデイサービスセンター 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 28 年度は、延べ利用者数が H27 年度、350 人から、H28 年度、395 人と 45 人の増加となり、収入面での増加に繋がりました。年度内で 2 名のご利用者がグループホームしおさいへ入居となりました。

また、新規利用者は 4 月に 1 人、11 月に 1 人、3 月に 1 人でした。3 月末時点で 5 名の実利用者となっています。H29 年度もしおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流や、閉じこもり防止と社会参加、楽しみの時間の確保、生きがいとなるよう努めました。

ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担軽減となるように行いました。

平成 29 年度目標

平成 29 年度に於いては、延べ利用者数において前年度を下回ることなく今年度以上を目標に取り組んでいきます。

しおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流や、閉じこもり防止と社会参加、楽しみの確保、生きがいを感じれるよう、また、ご家族との在宅生活の継続に繋がるように勤めます。

ご利用者の個人を尊重、パーソナリティーを理解、大切にしながら、住み慣れた自宅での生活を継続できるよう、職員一同のチームケアで支援し、努力していきます。

特別養護老人ホームゆうらぎ 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

ゆうらぎでは、毎年事故減少に向けて取り組んでいます。今年度では、2 点に力を入れました。

1.外部講師を積極的に招き知識・技術の向上や最新の福祉用具の有効活用を行い、利用者個々に対して的確なケアを提供する事で事故の減少を目指しました。

2.事故分析にも力を入れ、ゆうらぎ独自の分析・集計表を作成し入力すればいつ・どこで事故が起きているのかを一目で分かりやすく行う事での確に対策を講じる事が出来るようにしました。

その結果、昨年よりもアクシデント件数が減少する事が出来ました。

この 2 点については、今後も継続しまた発展させることが出来るようにしていきます。

利用者の状態把握では、昨年度から実施している情報シートの有効活用を引き続き行いました。

個別ケアを行う中で利用者の情報が必ず必要となってきます。

そこで昨年度に作成した情報シートの更なる活用を行いました。

会議時には見直しを図り、利用者の状態変化を見逃さず、変わった際には迅速に変更・周知を実施することで個別ケアの実施が出来ました。

また、新規利用者等を面接した際は面接記録が 1 種類しか無く見にくい物であった為、

この度初回・退院時・再調査用と 3 種類の面接記録を作成する事でポイントを絞った記録をする事で出来、利用者の状態を見やすく・的確に把握することが出来ました。今後も、定期的に見直しを図っていきます。

稼働率の維持・向上については、今年度 11 月に長期・短期とも 100%を達成する事が出来た。

これは、常に定期的に面談を実施する事で他職種間の連携強化を図り、

少ない人員の中でも職員が一丸となりケアを実施することが出来た証であると実感しています。

今年度は、介護保険制度改正に向けた動きが本格的に見えてくる 1 年となります。

福祉を取り巻く環境は変わろうとしています。その環境変化に適応し、

更に職員一丸となりゆうらぎ独自のケアが展開できるように取り組んでいきます。

平成 29 年度への課題及び展望

①予防処置の立案、また起きた際の事故分析を詳しく行い事故の減少に繋げ、安全・安心を提供する。

②利用者のアセスメント力を養い、状況を細かく把握する。その内容を取り組みやケアに展開し、個別ケアを実施する。また、内容を会議等で伝達・周知させ他職種一体となり施設ケアを行う

③情報シートや面接シートを充実させ、入居後や状態変化後すぐにケアに反映させていく。

④行事实施後には、すぐに広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。

⑤リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組む。何か問題を抽出した際には速やかに面談等を通じて、解決を図り働きやすい職場環境をつくる。

④各職員が成長を目指した目標を掲げ、達成に向けた支援をリーダー中心とし作り上げていく。

⑤組織の仕組みを見直し、介護現場に置いてスムーズに問題解決に向けた組織づくりを目指す。

⑥介護ロボット等の最新機器、技術を導入し、将来重度化を見据えた介護手法を確立させる。

⑦介護保険制度改正内容に注視し、いち早く把握し家族等に説明を行い適正な運営確保に努める。

⑧ショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。

ゆうらぎデイサービスセンター 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 29 年 3 月 31 日をもって 10 年間デイサービスの事業を行ってきました。

今年度は、60 名の定員で事業を運営してきました。年度当初は、90%にも迫る稼働率を維持することが出来ました。要因として、常に新たな事にチャレンジし、サービスの向上に努めてきた結果ではないかと思っています。

しかし、9 月末日にて職員が退職したことによる加算の取り下げ、その後下半期にかけての入院・施設入所などにより

稼働率が著しく減少したことも事実にあります。

今後、新規利用者獲得に向けケアマネージャーへの営業なども、今後の課題であります。

この 1 年間で取り組んできたことを下記に記述します。

- 各月ごとに教育訓練を実施。職員の能力向上に努めた。
- 利用者増加に伴い、新しいレクリエーションの創作と取り組み等、ソフト面を強化する事で、利用者から選んでいただけるよう努めた。
- 淡路市の通所系の事業所が集まる会議へ参加し、情報の共有を図った。

この結果として、本年度稼働率は 89.0%、延べ利用者数は 16,663 人となりました。

前年度の年間実績から比べても、延べ利用者数はプラス 95 名となっており、1 月平均約 8 名の増加となっています。

職員が一丸となり、利用者の方にどう過ごして頂くかを考え、実行してきた結果が、利用者増につながった事により、職員個々の自信が出来てきました。

平成 29 年度への課題及び展望

○ 増加する利用者に統一したサービスを提供していく為に、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行う事で、自事業所の質の向上を図ります。

- 各職種の能力を高める為に、資格取得を図ります。
- 事故を未然に防ぐ為に、職員間で情報の共有を図っていきます。
- 利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。
- 現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。
- より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。
- 地域との関わりも今後は、より深めていきます。

以上の点について今年度より、ゆうらぎデイサービスセンターは取り組み、体制の強化を行っていきます。

ゆうらぎ訪問介護ステーション 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

サービスが多様化し求めるものが大きく変化しつつある中で自費サービス事業の定着に取り組んでまいりました。パンフレットの製作まで至らなかつたが需要は少しはありました。

自費サービスは介護保険のサービスと違ったサービスで、普段見る事の出来ない笑顔やサービスで訪問介護員冥利につける出来事もありました。また目標にあげていたアクシデントにならないようインシデントに取り組んできましたが、入院や訪問回数によることもあり訪問では継続、観察が困難でした。思いや着眼点はこれからも継続していきます。

老計 10 号の各項目について、サービス提供責任者として助言のポイントも訪問介護員と一緒に学びました。改めて思う事や認識間違いや、このような場合はどうなんだろうと悩んだこともありました。それらひとつひとつを確認しながら訪問に繋げてきました。機会があれば何度も確認して行きたいです。

日常生活支援事業を理解しつつ支援、訪問していき、安心して暮らせるように生活の質の向上を図れるように努めていきます。まずはサービスの再確認をして行きます。また、訪問介護員として訪問開始から終了までの基本的な流れの中での認知症等の人への接し方を見直そうと考えています。

平成 29 年度への課題及び展望

団塊の世代が75歳を迎えつつあるなか、新しい日常生活支援総合事業が4月より実施されます。高齢者の多くが地域の中で社会参加できる機会を増やしていくことが高齢者の介護予防につながっていきます。そして「したい」「できるようになりたい」ことが可能になり、日常生活の中で地域活動への参加に結びつけることが期待されている中で、訪問介護事業所がどのように関わっていくかが問われる中、移行準備をすすめています。

また、終末ケアや看取り、グリーフケアの需要が、在宅現場において高まっています。介護職はどのようにかわることが求められるか、他職種（訪問看護、訪問リハ等）との連携はどうあるべきか、今年度はそんなことをふまえて「その人が自分だったらどうしてほしいか」を軸にし、サービス内容にプラスアルファを考えていきます。そのためには、会議等の中で、意見や思いが言える・伝えられる環境作りに取り組んでまいります。

養護老人ホーム北淡荘 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 28 年度は、開設 10 年目を迎え、精神疾患、認知症等、利用者が抱える問題が多様化し、入居後に支援、介護が必要となるケースも増え、業務への負担が大きくなっている事から、今までの慣習にとられる事なく、業務・行事を検証しました。

利用者には、自分で出来る事は自分で行う事を前提に、利用者同士が助け合えるような環境作りに努めると共に、施設での生活が困難な重度要介護者については、親族、福祉事務所とも検討し、特養への入所を進めました。

行事についても、利用者の心身の状態に差があり、参加者が偏る傾向が見られたため、利用者の状態に応じて企画するようにし、多くの方が参加して気分転換が図れるようになりました。

健康管理面では、嘱託医を養護職員勉強会の講師として招き、緊急時対応、利用者の健康状態把握等、職員が日々抱える医療面の課題を解決すると同時に、嘱託医とのコミュニケーションを図る事により、職員、そして利用者の医療面での不安も軽減されました。

利用者が抱える問題が多様化し、自立度が低下する中で、大きな事故、問題もなく、安心、安全な生活が送れるように支援でき、昨年同様、概ね無難な施設運営ができたように思います。

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度も、養護老人ホームの入所対象者はさらに多様化されていくと予想され、認知症を含め、様々な条件を抱えた利用者が、同じ施設の中で安心、安全な生活が送れるよう、業務の改善、設備面の見直し、職員のスキルアップを図り、養護待機者が減る中で、北淡荘を選んで頂けるよう取り組みたいと思います。

小規模多機能型居宅介護事業所 むくもり 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 28 年度平均登録者 23,5 名となりました。
前年度平均登録者稼働率 77% に対して、病状悪化の入院、長期施設移行があったり、今年度平均は登録者稼働率 81% となりました。

その内要支援の方が減、要介護の方が増となり、又「要介護 1」の方の増加で通い回数の増となったり、泊まりを中心とし昼間自宅での生活の支援の逆デイサービスであったり、一人ひとりの多様な生活に対応した柔軟なサービス提供を心がけました

2 回目となるサービス評価が実施。事業所は提供するサービスの質を自ら評価すると共に、定期的な外部の者による評価をうけて、その結果質の向上の取組、チームのステップアップしていく者で自己評価（事業所評価）、外部評価（保険者、地域包括支援センター初め地域住民、運営推進会議メンバー）を自らの振り返りや質の向上を図るものであり、改善点や課題など見直す機会となり、課題であった職員の質の向上で施設外研修の参加が課題となり、高齢者虐待、認知症の方の支える訪問看護、口腔ケア研修、在宅酸素療法などに参加し学べる体制をとり職員会議で得た知識を共有しました。

課題を吸い上げる事により意識の向上ができたと思います。
今後ご利用者に満足して頂けるよう、職員の人材育成と経営の安定化に努め、法令の視点からサービスの質の維持・継続を図り、地域住民、行政や関係機関及び各事業者と連携・協力し、地域の皆様の期待に応えられるよう、身近な必要とされる事業を展開して参ります。

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度においては、介護予防給付の総合事業が開始し、体制が変わります。
小規模多機能のサービスは変わりませんが、淡路市の体制が変わり、問い合わせ等が予測され、いきいき百歳体操の地域住民参加の呼び掛けなどで予防の受入など、柔軟なサービスを提供できるよう、スムーズに対応していきます

開設して 10 年となります。
地域社会・地域住民にも貢献できる施設作りを目指します。
地元の小学校や保育所への行事にも参加させて頂き、地域の高齢者や子供達との交流を繋げます。
又、施設内での催しの充実を図ります。

事業運営面では、登録者数の安定と経費削減では、コスト意識を持ち、安定した運営の確保を目指します。

佐野デイサービスセンター 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

昨年度、通常規模へ変更となると同時に介護保険改正による報酬減算となりました。その上、介護職員不足から利用者定員を昨年の 27 名から 25 名に変更致しました。そうする事で、介護職員が昨年までの 4 名から 3 名とする事ができました。

前年度に引き続きご利用者に提供するサービス内容の充実に取り組んで参りました。ご利用者の個別性を重視したレクリエーションや季節感を取り入れた外出行事の実施、毎月ボランティアの慰問、又、本年度よりプログラムに認知症予防を組み入れました。

安心・安全の確立としましては、予防意識向上によりアクシデント・クレーム数を 10%減少。地域住民の身近な拠り所としましては、週 1 回いきいき 100 歳体操の場所提供、毎月地域のボランティアの方との交流、佐野小学校・佐野保育園児との交流会を実施、秋祭りの開催等、地域との繋がりを図ることができました。

しかし、10 月～骨折等による入院、長期欠席、死亡者増加に対する新規利用者補充至らず、結果、延利用者数 5,891 名と前年度を下回ってしまいましたが、年平均稼働率は 75.3%となり、前年度 74.7%を少し上回りました

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度は、介護予防事業が淡路市総合事業に変更。加算取得・経費削減、更なる関係機関との密なる連携及びサービスの質の向上に取り組むことで、適切な収益の確保に努めて参ります。

地域密着型特別養護老人ホームほほえみ 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

開設から 5 年が経ち、平成 28 年度は

- * 個別ニーズへの対応と顧客満足度の向上
- * 職員のスキルアップと意識改革による質の向上
- * 目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行 を大きな目標として進めてきました。

『個別ニーズへの対応と顧客満足度の向上』『職員のスキルアップと意識改革による質の向上』に関しては、これまでも目標に掲げながらもフロア単位ユニット単位でしか進めることが出来なかった部分がありました。

また、様々なニーズへの対応が早急かつ継続的に行うことが出来ず、中途半端な状態で滞り、問題や課題だけが山積している状態でもありました。

原因としては、職員の技量や問題解決力等の不足や情報共有や伝達方法等が効果的ではなかった事が大きな要因であったと思います。そういった部分を克服し、ご利用者により良い形でサービスとして還元できるよう様々な取り組みを行いました。

例えば、ご利用者、ご家族の『声なき声』を汲み取り実現したのが『ご自宅へ帰省する』ことです。これまでも取り組みとして行ってきましたが、比較的自宅に帰る方は終末時を迎え、時間も限られている中でお連れすることが多く、また体調やご家族の都合で帰宅のタイミングを逃すといったケースもありました。

そのような反省も踏まえ、希望ある方の帰省を検討し、実現しました。その結果、ご利用者やご家族からの喜びの声や関わり等も飛躍的に増えました。また、職員に関しても取り組みを成功させたことで自信、やりがいやモチベーションの向上等、日常的な業務では習得できない様々な効果がありました。

職員のスキルアップに関しては、外部研修に全正規職員が参加し、新たな知識の習得と学習した事の水平展開に努めました。

『目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行』に関しては、稼働については長期入居の方の入院が常時1名以上あるような状況が続き、また熱発や転倒による病院受診や入院等もあり目標稼働率に届きませんでした。

短期入所の稼働については長期入居者の入院中の居室を利用しての稼働を効果的に利用することが結果的には出来たので目標稼働率以上の成果が出ました。

予算に対する執行状況については、予算内での運営が出来ましたが設備や機器などの修理やメンテナンスの回数が年々増加傾向にあります、出来る限り長く使用できるよう適切な機器の取り扱いに努めていきたいと思っております。

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度に向けては、まずはご利用者に『安心で安全な生活を送る』ことが出来るよう適正なサービスを継続的に提供し、少しでも心に寄り添うことのできるよう努めていきたいと思っております。その為にも、職員の更なるスキルアップや道徳、倫理観の再確認や教育等を行い、専門職としてだけでなく一人の人間としても成長できる職場にしていきたいと思っております。

最後に、運営においても無駄な支出を抑えながら、目標稼働率以上の結果を残せるよう、日々の業務や関係機関とも密に連絡や協力を惜しまず、困難ケースや緊急対応の事案に関しても積極的に関わり、地域や社会に貢献できるよう努めたいと思っております。

千鳥会デイサービスセンターほほえみ 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

28 年度は昨年度同様に通常規模、定員 30 名で運営し、年間を通しての 1 日の平均利用者数は 24 名弱と昨年度の 25 名弱を下回る結果となりました。

新たな加算として中重度者ケア体制加算を算定し、要介護者の単価は上昇しましたが、利用人数の減少により当初予算の達成と定員 35 名の目標は達成出来ませんでした。

28 年度の目標としては、

- ①各サービス内容の向上、新しい取組みの実施。
- ②インシデント・喜びの声を昨年度より 10 件増。
- ③緊急・困難ケースの受け入れ。
- ④職員の研修参加。
- ⑤予算管理の徹底。
- ⑥定員 35 名へ増員。 を掲げて取り組んできました。

新しい取組みでは、夕食サービスの実施、ほほえみ体操の作成、ご利用者アンケートによる食行事の実施、認知症サポーター研修の実施、年末イベントの開催をおこないました。

夕食サービスは東浦地域、1 日 3 名と限定的な形で実施しました。法人内サービスの配食と重なる部分もありますが、一人暮らしのご利用者や、弁当では少量しか食べない利用者のニーズに答えることが出来、1 日 2 名程度の利用となっています。来年度も現状の形で継続し、在宅生活の継続に繋げていきたいと考えています。

ほほえみ体操については 365 歩のマーチに合わせて創作体操を考え、日々の体操の中に取り入れました。なかなか動きがお覚えられなかったご利用者も上手に体操をされるようになりました。

食行事については、各曜日のご利用者の希望を聞きながら BBQ やお鍋、お茶会等を実施し、ご利用者に楽しんでいただくことが出来ました。

認知症サポーター研修についてはデイとしての取り組みではありませんが、地域包括支援センターと連携して開催し、地域の皆様に認知症について考えていただくきっかけになったのではないかと思います。

年末イベントでは 31 日に営業を行い、薬湯、串カツバイキング、年越しそばを用意し、2016 年最後の利用を盛り上げる事が出来ました。

インシデント・喜びの声については、各職員の気づきやご利用者の声を記録に残すよう努め、昨年度より 15 件増と目標を達成することが出来ました。

ただ、アクシデント件数は昨年度と変わらない件数となっており、インシデントを事故防止へと繋げ、事故件数の削減が課題となっています。

緊急・困難ケースの受け入れについては、利用相談に関してはすべて受け入れの調整を進めましたが、利用へと繋がらなかったケースもあり、事業所として各ケースへの対応力の向上が必要だと感じています。

職員の研修参加については、認知症への対応として 4 DAS 研修に参加し、事業所のサービスに活用していきたいと考えていますが、下半期は職員不足もあり新しい研修への参加が出来ませんでした。

各職員のスキルアップや意欲向上に向け、来年度も研修参加を進めていきたいと考えています。

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度は、新しい取り組みとして日帰り旅行やテレビ画面を活用したレク機器の導入を考えており、ご利用者の満足度の向上、利用人数の増加へと繋げていきたいと思っています。

今年度に引き続き、職員の研修参加、緊急・困難ケースの受け入れを進め、アクシデント件数の削減、事業所の対応力の向上にも取り組んでいきたいと思っています。また、介護予防のご利用者が総合事業での利用となることも踏まえ、予算管理を徹底していきたいと考えています。

小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 27 年度介護保険制度改正に伴う定員、報酬の変更から 2 年目を迎えました。平成 28 年度当初は入院者増加に伴い、登録利用者の減少がみられました。しかし、地域の困難ケースとされる新たな相談依頼にひとつひとつ応えることで、夏季以降は登録利用者が増加。結果として月平均 25 名程度の登録となり、安定した事業所運営につながりました。

支援内容としては、軽度中度の利用者への生活支援はもとより、重介護度の利用者にも泊り・通い、他の居宅サービスを組み合わせることで、自宅での生活をサポートすることもできました。

従来スタイルとはまた異なる一面も見いだせ、事業所としての成長を感じた 1 年となりました。

また引き続き、地域密着型のサービスとして地域回帰を合言葉に事業所で過ごすことが多くなった利用者へ、馴染みの地域へ戻る機会への取り組みもステップアップさせています。

「一人暮らしの会食会」や「男の料理教室」といった地域のふれあいの場や、地元の祭事や行事にも例年より数多くの利用者に参加支援が行えました。

平成 29 年度は淡路市でも介護予防給付が総合事業の介護予防・生活支援サービス事業となります。総合事業の中では一般介護予防事業と分けがなされ、対象となる高齢者へのサポート体制も大きく変化します。

小規模多機能サービス利用者には変化はありませんが、地域での体制が変わるなかで、柔軟なサポートを要する相談も予想されます。現状での利用者支援はもちろん、事業所としての新たな対応力も求められるところでもあります。

平成 29 年度への課題及び展望

平成 29 年度より看護体制の充実を図ります。生活支援への特化に留まらず、健康管理・認知症理解といった面でより質の高い利用者家族への支援に努めていきます。

また介護・看護含めた各専門職が心身のスキルを高め、利用者家族それぞれの思いや価値観に沿う支援ができるよう、事業所としての倫理観の再共有を徹底します。

具体的には平成 29 年度の事業所独自のスローガンを掲げ、職員間での周知、勉強会や個々のケースより学びを深め、利用者家族への支援に活かしていきます。

従来以上に利用者家族がともに馴染み親しんだ地域での暮らしをより継続できることで、東浦地域における唯一の小規模多機能事業所としての役割・存在を確固たるものとする 1 年としていきます。

ちびっこランドちどり 事業報告

平成 28 年度 事業所総括

平成 27 年 4 月より認可保育園としてスタートをきり早 2 年が経ちました。職員の異動もあり園内の雰囲気ががらりと変わったことで、子どもたちも新しい環境に不安そうでしたが、職員も心機一転、新生活をスタートさせました。

開園より築き上げてきたものを崩さぬよう、ちびっこランド・ちどりの特徴の“一人ひとり主役”の保育を目標に、保育指針をもとに年齢別年間保育計画、発達過程や個々の個性に配慮した月刊保育計画を作成し、異年齢が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。

4 月当初は、職員も新人職員の為、何をするのも手探りで、まずは子どもたちとの絆づくりからと、毎日あわただしく過ぎていきました。

とにかく仕事に慣れ、保護者や子どもたちとの信頼関係を築こうと、毎月、月行事や園からのお知らせ、その他機微の育児知識のようなことを園だよりとして発行することを計画し、実施しました。

その他、フェイスブックにて園行事等の公開も実施し、保護者の方から大変好評で、更新を楽しみにしているといった喜びの声も多数頂きました。

毎日設定保育の時間を持ち、絵本の読み聞かせや紙芝居を 1 日に 1 回は取り入れました。

また、お天気が良ければ、身近な自然と関わる機会を持つ目的で、近隣へ散歩に出かけ、道すがらの草花や小さな虫、木の実を見つけてそれを素材とした制作活動に活用する等、子どもの興味を引いたりしました。

その他、近隣を散策途中での地域の方とのふれあいや、地域の季節行事に参加したり、地域密着型特別養護老人ホームほほえみを訪問し、様々な行事に参加させていただき、ご利用者とのふれあいにより社会性を引き出すことに努めました。

子どもの表現する力が未熟であったり、うまく表現できない子供に対して気持ちを受け止め、適切な援助で対応したり、子どもの欲求や訴えに関しては、状況を把握し遊びを取り入れて楽しく活動ができるよう努めました。

基本的な生活習慣についても、子どもの自主性を尊重し自立に向けた対応を心がけました。

1月には、事業拡大によるISOサーベイランスの審査を受けたことで、日々行っている保育についての確信と、不足している面を再確認し今後の大きな課題となりました。

平成29年度への課題及び展望

少しずつ地域での知名度も上がり、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と保育環境や保育機能、保育内容の充実を図り計画、実施していきます。

また、地域における子育てニーズを把握し、園の周辺や、最近体験していることを洗い直し、活動の見直しを図りながら、更なる機会を検討していきたいと思えます。